的外

みのる法律事務所便り
令和8年 11 月第 439号



みのる法律事務所
弁護士　千田　實
〒021-0853
岩手県一関市字相去57番地5
TEL：0191-23-8960
FAX：0191-23-8950

田舎弁護士の駄弁句 223

どう生きる　難問ですが　そうでなし
心一つで　どうにでもなる



どんまい!

令和8(2026)年11月1日
青空浮世乃捨
田舎弁護士 千田 實

「人間はどう生きるべきか」という問題は、2500年も昔の釈迦も孔子もソクラテスも考えたようです。昔も今も変わらない難しい問題でもあります。

私も中学生の頃より考えていました。いまだに「これだ」という結論は出せません。ですが答えは簡単な気もします。考え方次第、心の持ち方次第という気がするのです。

60代の10年間は10回を超える手術と入退院を繰り返しました。余命宣告を受けたり、臨死体験らしきことも経験しました。

その体験と試行錯誤の結果生まれたのが、**『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』**という**『いなべんの哲学』**です。

この哲学を確立したら、その後の人生は、コロリと変わりました。**「どうせ死ぬ身だ。何をやってもつまらない。この世など面白くない」**という思いから、**「せっかく生まれたのだから、生きている間はこの世を楽しみ尽くそう」**という思いに変わりました。その結果生まれたのが、**『いなべんの哲学』**です。

そのように心が変わったら、生きていることが楽しくなりました。70代から80代に入って、生きていることが楽しくて生まれてきてよかったと思えるようになりました。これは心の持ち方一つで変わったのです。**心を変えただけで、人生が変わったのです。**

心は誰のものでもありません。自分のものです。どのように持とうと、どのように使おうと、誰にも文句を言われるものではありません。自分の心次第でどうにでもなります。

こんなにありがたいものはありません。心は自分の好きなように、自分の都合のよいように上手に使いましょう。それは自分の心一つだけでできます。金もかからず、他人の力も不要です。自分の心次第です。**他人と心が通じ合えば、楽しさは無限に広く深くなります。**自分の心だけではなく、他人の心も活用して、**お互いに心を通い合わせましょう!!**それが幸せになるコツです。

田舎弁護士の駄弁句 224

心こそ　幸不幸への　分かれ道



その持ち方は　自分が決める

令和8(2026)年11月1日
青空浮世乃捨
田舎弁護士 千田 實

「自分は幸福だ」と思うか、「不幸だ」と思うかは自分が決めるものであり、他人がどう思うかなど一切関係はありません。「自分は幸福だ」と思えればそれでいいのです。それが他人の心と共鳴すると幸福感は無限に広まり、深まります。

トランプ大統領は大統領となって、トランプ個人の財産を大幅に増やしたという噂もあります。それには誰も共鳴しません。心の持ち方が間違っています。トランプの心の持ち方には共鳴できません。誰もついていかなくなると思います。

昔の人は言いました。**「少欲知足」**と。欲は小さくして、これで十分と思えば、トランプ大統領のような行動には及ばない筈です。

トランプ本人は、なりふり構わず「権力」と「財産」を底なしに求めているようですが、「あわれ」という他にことばは見つかりません。心の持ち方が狂っています。心の問題はそれぞれの個人の問題ですから、他人のことをとやかく言うべきことではありませんが、他人の心を無視して自分の心の満足のために何でもするというやり方は、絶対に許してはならないのです。これは**「心の乱用」**です。心は自分のものですが、他人の心を思いやる心は絶対に不可欠です。

人間一人ひとりの幸不幸は個人の問題であり、その人の心の持ち方で決まるものです。自分の幸不幸は自分の気持ちだけで決めればいいのです。「自分は幸福だ」と思えれば、それでいいのです。

ただ心しなければならないことは、心は自分だけにあるのではなく、他の人にもあるということです。トランプ大統領のような立場にある人間は、「トランプ・ファースト」では心があるとは言えないのです。心は個人の問題ですが、他人も皆持っているものであり、それを尊重しなければならないのです。心の問題は立場によっては、より難しい問題となります。立場のある人は特にここを忘れてはならないのです。

究極の心の持ち方は、**『自分が幸せになり、他人を幸せにする』**ということになるのです。**『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』**という**『いなべんの哲学』**を実践し実現しなければならないのです。

このことは、トランプ大統領にも高市首相にも教えてやりたいのです。立場のある人には心の持ち方を特に心してほしいのです。

『心の拠り所』を見つけたいのです。



2018 年 11 月 3 日に**『いなべんの哲学』**第 1 巻を発行してから、2026 年 11 月 3 日で丸 8 年となりました。この間に『いなべんの哲学』シリーズは、31 巻を発行することができました。粗製濫造と言えそうです。いいかげんな駄弁本をやたらたくさん出した気がします。

この辺で、**「哲学に関する駄弁本を出そうと思い立った心はなんだったか」**を見直してみようという気持ちが湧いてきました。**「戦後の日本で生きている人間には『心の拠り所』がないような気がする」**のです。当時もそのような思いで哲学の本を書こうと思ったのでしたが、その後 30 冊の哲学の駄弁本を出した現在でも、そのような思いは変わっていないのです。

いまの日本人には**「人間はどのように生きたらよいか」**という**『心の拠り所』**が必要だと思うのです。8 年前にもそういう思いで『いなべんの哲学』という駄弁本を出しましたが、その後 30 巻の『いなべんの哲学』シリーズを発行した現在もその思いは変わらないのです。

もう一度、日本人の心の拠り所、つまり日本人が生きていく上で心の支えにしなければならないものは何かを考えてみたいのです。まずそのために、**『いなべんの哲学 第 1 巻―いなべんの哲学の意義―』**の第 7 段**「近代自然科学理論の忘れもの」**を転載します。これを読み直した上で、もう一度いま私達日本人は、**「人生は、どのように生きたらよいか」**という永遠のテーマに対して進むべき方向を見つけ出してみたいと思うのです。

令和 8（2026）年 11 月 28 日（土）には、コロナ解消後に再開した**『いなべん研修会』**は、第 10 回となります。第 10 回を記念して『心の拠り所』というタイトルで、「心」について掘り下げてみます。「心」という 姿形 の見えないものの大切さは、ここまで生かされてきてよくよく分かるようになりました。**「心というものはどういうものなのか」、「心はどのようにコントロールしなければならないものか」**ということをいっしょに考えてみたいのです。是非いっしょに考えて下さい。

まず『**いなべんの哲学』第 1 巻**の**「近代自然科学理論の忘れもの」**をお読み下さい。8 年前の駄文ですが、そこで述べた「心」はいまも変わっていません。

近代自然科学理論の忘れもの



自然科学とは、「自然界の現象を研究し、その法則性を見いだそうとする学問。天文学・物理学・化学・地学・生物学など」（角川必携国語辞典）です。理論とは、「個々の事実の体験を体系的に説明する考え」（前同）です。自然科学理論とは、我々一般大衆に分かり易く、いなべん流に解釈すれば、「自然現象に関する学問とか、考えとか、知識」と言ってしまってもよさそうな気がします。

近代とは、「一般には封建制社会のあとを受けた資本主義社会についていう。日本史では明治維新から太平洋戦争の終結までとするのが通説」（広辞苑）です。ですから、近代自然科学理論とは、「封建制社会のあとの自然現象に関する学問、考え、知識」と言えそうです。

この近代自然科学理論は、近代社会において、圧倒的に支持され、どの哲学よりもどの宗教よりも信仰されています。特に戦後の日本においては、近代自然科学理論は片寄って重んじられているとさえ言えそうです。私は、近代自然科学理論偏重とも思える現代の世の中の風潮に疑問を感じています。身の程をわきまえずに、近代自然科学理論偏重とも思える現代の世の中に対し、ものを申すことにします。

近代自然科学理論は、①普遍性、②論理性、③客観性を要求します。それを満たすものは信用に価するが、そうでないものは信用するに価しないものとして排除しようとします。学校で子供たちに教える知識も、この三つの要件を満たしたものに限って教えています。**「この三つの要件を満たさないものは、超自然現象などと称したり、ときには自然界の法則に反したばかばかしく、くだらないこと」**として、学校教育の場などでは排斥され、論じられることはありません。この三つの要件を満たさない心の問題は教育の場で教えられませんでした。

私は、この近代自然科学理論偏重の教育に疑問を感じています。自然科学理論偏重の裁判に、医療に疑問を感じています。大事なものが置き忘れられている気がするのです。近代自然科学理論が求める①普遍性、②論理性、③客観性の三要件を満たさないものを無視ないし軽視してきた近代自然科学理論偏重の教育こそ、藤村操少年のような「萬有の真相不可解」を理由に自ら死を選ぶような哲学を生み出したような気がするのです。

近代自然科学理論は、普遍性、論理性、客観性を欠くものの中にも、捨ててはならない重大なものがあることを捨て去ったというか、置き去りにしてしまったという極めて大事なことを忘れている気がするのです。

前記の通り、近代とは、日本史では、明治維新から第二次世界大戦終結時までですが現代に至ってもなお、自然科学理論偏重の傾向は変わっておらず、ますますその傾向は強くなっているとさえ言えそうです。「心」という大事なことが忘れられている気がするのです。

現代の日本人の多くは、近代自然科学偏重主義者となっています。ここに大きな落とし穴があると思えてならないのです。近代自然科学理論とはどういうものかを見直し、近代自然科学理論に忘れられたり、捨て去っているものでこれだけは大事にしなければならないというものを見直して、それを大事にしなければならないのです。その代表は「心」です。心を見直し、掘り下げなければならないと確信しています。

「普遍的」とは、「時代や地域などに関係なく広く一般にあてはまるようす」（角川必携国語辞典）です。「2＋2＝4」は、江戸時代でも、現代でも、アメリカでも、アフリカでも、日本でも当てはまります。時代や地域などに関係なく当てはまります。まさに普遍的です。自然科学理論偏重主義者は、そういうものでなければ認めないのです。

江戸時代には、祈禱や呪文の効果は広く信じられていました。アフリカなどの国においては、今でも信じられているところもあるようです。ですが、現代の日本ではほとんど信じられてはいません。祈禱や呪文は普遍性がないと近代自然科学理論偏重主義者はこれを捨ててしまいました。そのような教育を受けた現代の日本人は、ほとんどの人が祈禱や呪文は信じません。

本当にそうなのでしょうか。長い間、多くの国や地方で多くの人が信じ、行われてきた祈禱や呪文には何の効果もないのでしょうか。確かに、これまでの近代自然科学では、祈禱や呪文の効果は証明されてはいないのかもしれませんが、それはこれまでの自然科学の範囲内のことであり、将来科学が進歩したら、その効果が証明されることがあるかも分かりません。その効果が絶対にないとは言い切れないのではないでしょうか。少なくとも、それを信じる人にとって「心」に影響することは間違いないと確信します。

その効果を信じ、祈禱や呪文をしている人々の心を無視ないし軽視することは、時には、大事なことを置き忘れてしまうことにならないでしょうか。「病は気から」とは昔から言い伝えられてきました。「病気は気持ちの持ちようでかかるものだ」という意味ですが、心のはたらきによって、食欲不振となることがあることなどは、誰もが身を以て体験するところです。「偽薬」の心理的効果は、脳科学的データとしてあるようです。心が落ち込むと体調を崩すなどということはよく体験することです。

近代自然科学理論は、心のはたらきを無視ないし軽視しがちなところに、大事なものを置き忘れているのではないかという気がします。見えるところだけ見て、見えないところを見ようとしない科学実験的思考方法に問題がありそうです。隠れているところ、見えないところを見ようとすることは、哲学を語るうえで極めて大事なことです。哲学とは心を掘り下げてみることでもあるのです。

人間の心の中は見えません。それでも人間の心の中は人それぞれで、時代や地域などに関係なく一般にあてはまるものではありません。人間の心には普遍性はないのです。この点を忘れていると思える近代自然科学理論偏重主義には、大きな誤りがあると言わなければならないのです。心は誰にでもあるのです。その心は人、一人ひとり違うのです。この心を無視して人生は語れないのです。一人ひとりの違う心を尊重しなければ、「個人尊重」は成り立たないのです。

「論理的」とは、「すじみちの通った考えかたをするようす」（前同）です。すじみちが通った考え方の証明は、近代自然科学の世界においては最後には実験によって証明されるかどうかということになりそうです。よく「エビデンスがあるとはいえない」と言いますが、実験で証明されていないということです。この近代自然科学理論の求める実験による証明ができないものは、この世には沢山あります。それを軽視ないし無視しがちな点に近代自然科学偏重主義の欠陥があると思えてならないのです。心は実験で証明できないのです。

近代自然科学偏重主義が軽視ないし無視しがちな最も大事なことは心のはたらきです。**嘘**発見器などというものを見たことがあり、心のはたらきもある範囲に限っては実験でも証明できることもあるかもしれませんが、突き詰めていくと心の中は実験では証明できません。そのため、心のはたらきは、近代自然科学理論偏重主義者からは、軽視ないし無視されがちになっています。これは間違っていると思います。「心」を無視しては「生き方」は語れません。

「心」とは、「人が感じたり考えたりして、外に向かってはたらきかけるもとになっていると思われるもの。精神」（前同）です。この心のはたらきは、実験でどのようにして証明できるのでしょうか。自然科学の世界において、実験で証明できないものは論理性がないとして無視したり、軽視されて、心の問題は無視ないし、軽視されています。

ここに、近代自然科学偏重主義の最大の欠陥（けっかん）があると思えてならないのです。心の問題が無視ないし軽視されてしまっては、人間の世界は成り立ちません。哲学は語れません。人間の行動の多くは、心のはたらきによって営（いとな）まれています。論理性がないと言って、心の問題を無視ないし軽視したら、人生を語ることなどできないのです。

哲学は、いろいろな経験から得た知恵をもとに行きついたゆるぎない信念・信条を語るものですが、心のはたらきを無視ないし軽視したら成り立ちません。近代自然科学一辺倒では、哲学は語れないのです。心の問題こそ、哲学の大きなテーマなのです。

心の問題を論じない近代自然科学偏重主義は、誤っています。心の問題こそ哲学にとって最大のテーマなのです。その心の問題を無視する近代自然科学偏重主義には、根本的な誤りがあると言わなければならないのです。知識は心の問題を問題として取り上げません。知識だけを偏重し、知識を軽視している近代自然科学偏重主義に疑問を感じているです。

「客観的」とは、「だれの目から見ても、確かだと思われる見かたや考えかたによるようす」（前同）です。その反対語は、「主観的」です。「じゅうぶんな根拠や理由がなく、自分だけでの考えかたや感じかたに基づくようす」（前同）です。

客観的なものは大事に考えるが、主観的なものは無視ないし軽視するということになったら、人間の行動は、その大事な部分の多くが無視ないし軽視されてしまいます。ある人を好きになったり、嫌いになったりするのは、誰の目から見ても確かだなどというものではありません。まさに、人それぞれの心の問題です。自分の心の問題であり、誰が見てもなどという問題ではありません。それは客観的な問題ではなく、人それぞれの主観の問題です。心の問題です。

「タデ食う虫も好き好き」とは、ふつうは好まない蓼（たで）というからい草を好んで食べる虫がいるように、好みはそれぞれだという意味です。**「あばたもえくぼ」**という言葉は、

その人を好きになってしまうと、欠点も美点に見えるということです。これらのことばは、分かり易く主観的な心の働きを言い表しています。

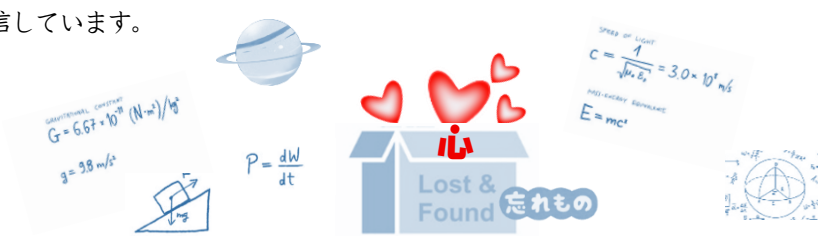
客観性にだけに拘る近代自然科学理論では、「タデ食う虫も好き好き」とか、「あばたもえくぼ」という言葉は出てきません。ですが人生の大事な部分は、客観的なものによって決せられるよりも、主観的なものによって決せられる方が多いのです。客観性だけを重視する近代自然科学理論偏重者は、客観性を偏重する余り、主観を無視ないし軽視し、人の心という大事なものを無視したり忘れているように思え、大なる疑問を禁じえないのです。

自然界の現象を研究し、その法則性を見出そうとする学問である自然科学つまり天文学・物理学・化学・地学・生物学などは、人間の心理的な面を無視ないし軽視してきた気がするのです。近代自然科学理論偏重者は、人生を語る上で、最も大事な心のはたらきを置き忘れてきた気がしてならないのです。

心という目に見えないものを捨てて、普遍性、論理性、客観性という目に見えるものにだけ拘った近代自然科学理論偏重者は、心を軽視ないし無視したため、心のブレーキがはたらかずに自然科学的な一面だけが驚異的に進歩し、核兵器までつくり出しました。もっと、心という人が感じたり考えたりしたりすることを、自然現象に関する学問と同じように大事にしていれば、核兵器をつくり出すなどという誤りを犯していなかったのではないかと思います。

近代自然科学の進歩は、人類滅亡・地球壊滅となりかねない核兵器を生み出し、近代自然科学理論偏重の教育は、心がなく核兵器をコントロールができないような政治家や指導者を生み出し、人類滅亡・地球壊滅の危険が現実のものとなっている地球にしてしまいました。

近代自然科学理論偏重主義者が軽視ないし無視しがちにしてきた心のはたらきを探究することは、人類滅亡・地球壊滅の方向に進んでいる近代自然科学の暴走に歯止めをかける唯一最大の方法だと確信しています。心を無視ないし置き忘れていると思える近代自然科学偏重主義には、警鐘を鳴らさなければならないと確信しています。



以上は、『いなべんの哲学』第1巻で述べたものですが、それを発行した日は、2018年11月3日ですから、今日2026年11月3日で丸8年となります。この丸8年の間で「心」の問題は8年前とは比較にならないほど考えなければならない状況となりました。その在り方を間違うことのないようにしなければならないことの必要性が高まってきています。

ほんのここ数年の間に「AI」が人間の心の問題に入り込んでしまいそうな勢いで発展し、近代自然科学の進歩によって人間の心がコントロールされてしまう心配が現実となってきました。AI の進歩は人間の生活に役立つことが多いことは間違いないでしょうが、人間の心がAI によって支配されたら悪いことも予測されそうな気がします。心の問題は本気で掘り下げなければならない状況となっています。

そのことに対する対策が必要だと思います。AI 対策をAI にさせるなどという考え方も出てくるかも分かりません。それでいいのでしょうか。そうなったら「人間の心」は、どうなってしまうのでしょうか。私にはAI のことは分かりません。AI は現代科学の中でも最先端(さいせんたん)を行くもので、84歳の老弁護士がついていくことのできる分野ではありません。いまさら AI を勉強し、AI を語ることなどできません。

ですが、84年間生かしてもらい、57年間地方弁護士として紛争解決のために全力投球させてもらっている身としては、**「自分が幸せに生き、他人を幸せにする生き方のコツ」**は知っているつもりです。そのような考え方の基(もと)となっているのは「常識」であったり、「人情」であったり、「ふつうの人間の普通の心」であると確信しています。その教えは、「ことわざ」や「格言」などになって伝えられています。それらの教えを掘り起こし、掘り下げ、見直すことによって、AI に対応してみたいという思いが湧いてきています。

「格言」や「ことわざ」でなくても身の回りの人が自分の気持ちを述べたことばの中にも、心の拠り所にしたいことばはあります。私が心の拠り所としていることばを二つ紹介します。

一つ目は**「正義の戦争より、不正義でも平和がいい」**ということばであり、二つ目は**「ケンカはしないから、強くならなくてもいい」**ということばです。一つ目のことばは、軽妙洒脱(けいみょうしゃだつ)な芸風の老俳優のことばであり、二つ目のことばは、小学3年生の男孫のことばです。どちらも大好きなことばです。**「戦争はしてはならない」、「喧嘩はしてはならない」**と教えてくれています。これが**『心の拠り所』**です。私の言う「心の拠り所」はこういう程度のことなのです。これこそ「戦争はしてはならない、させてはならない」を実現するための誰にでも分かり、誰もが心の拠り所とすることばだと確信しています。

【平和祈念講演会のご案内】

主催　大東九条の会

令和8(2026)年11月15日(日)　14:00(開場13:30～)

テーマ:『戦争はしてはならない・させてはならない！』



於:大東コミセン(大ホール)
(大東町摺R駅合築・摺R市民センター併設)

令和８（2026）年11月15日（日）に、「大東九条の会」主催の憲法９条を守るための講演会において、講演をすることになりました。『戦争はしてはならない・させてはならない！』という演題で話をさせて戴くつもりです。

高市首相の日本国憲法９条違反行為は、目に余るものがあり、９条改定を目指す言動も激しさを増しています。これを見逃すことはできません。高市首相のこのような動きに対しては『警鐘－危険を知らせたいのです－』シリーズを第１話から第11話まで書き上げました。念のためそのタイトルをあげると次の通りです。

【警鐘―危険を知らせたいのです―】シリーズ





第１話『公共の福祉ということば』
第２話『社会正義の実現ということば』
第３話『安全保障のやり方』
第４話『高市首相の国会答弁と憲法観』
第５話『戦わない、争わない』
第６話『何かをすることを許されている立場の人』
第７話『高市首相は、日本を戦争のできる国にしようとしています』
第８話『してはならない、させてはならない（その１）高市首相の憲法９条違反行為』
第９話『してはならない、させてはならない（その２）高市首相の憲法９条改定行為』
第10話『理論も大事ですが、気持ちが大事です』
第11話『国は、弱い国民のためにあるのです』

講演会では、これらの**『警鐘―危険を知らせたいのですー』**シリーズに基づいて話を進めたいと考えています。気が狂っているのではないかとさえ思えるトランプ大統領に擦り寄り、アメリカ軍といっしょに自衛隊を戦場に送るような日本にはしたくないのです。

あのトランプ大統領を**「世界で最もノーベル平和賞に相応しい人物」**などと言った高市首相には、日本国の舵取りは任せておけないのです。９条の改定を目指す勢力は、高市首相だけではありません。そのバックにはもっと大きな力があります。その大きな力に対抗するためには、一人ひとりの力は小さいのですが、主権者である国民一人ひとりの「９条を守る」という気持ちを結集させて、大きな流れにしなければならないのです。

トランプ大統領はベネズエラにアメリカ軍を侵攻させ、ベネズエラ大統領夫妻を拉致しました。イランの首脳会談の会場建物をミサイル攻撃で全壊させ、中にいた全員を殺害し、イラン戦争を始めました。その影響はいまだに続いていて世界経済は大変な状況となっています。

トランプ大統領が所属している共和党を選挙で勝たせてくれたら、日本円で 80 万円に相当する金をアメリカの全選挙権のある人にあげるなどと選挙を金で買うと公言しました。

まともな人間のやること、言うことではありません。狂人と言わなければなりません。トランプ大統領が所属する共和党は大敗しました。アメリカ人は衆愚ではなかったようです。人間としての常識や人情が残っていたのです。

トランプ大統領は、正常とは思えません。トランプ大統領に擦り寄り、日本をトランプ大統領の下で戦争のできる国にしようとしている高市首相などの大きな力に対抗し、日本国憲法 9 条を守るためには、主権者である日本国民一人ひとりの**「戦争はしてはならない、させてはならない」**という気持ちを一つに集めて大きな流れにしなければならないのです。

戦争はしてはならない、
させてはならない



【第 10 回祝研修会のご案内】

令和 8(2026)年 11 月 28 日(土) 10:00～12:00



テーマ:『心の拠り所』

於:SWS東日本シビックホール一関 1F 小ホール
(一関文化センター)

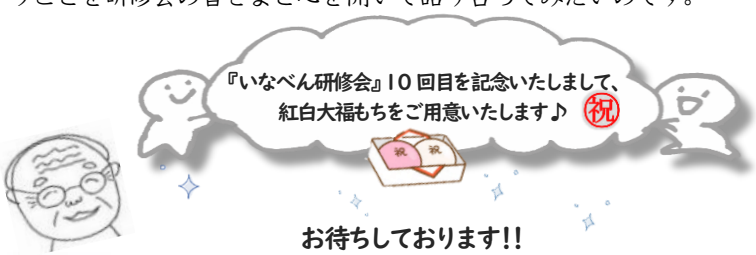
第 10 回研修会は、令和 8 (2026) 年 11 月 28 日 (土) 午前 10 時から 12 時まで開催します。タイトルは『心の拠り所』とします。話の内容は、駄弁句とその解説とこの事務所便りで述べたことと同じです。

「AI」などという人間の心に対抗するような得体の知れないものが急激に発達し、いまこそ「人間の心」を見直さなければならない状況となってきました。

これまでは自然科学を勉強していればなんとかなっていましたが、これからは心の問題を掘り下げなければならない時代となってきたのです。トランプ大統領や高市首相の心の中を覗いてみたいものです。普通の人間とは違うようです。どうなっているのでしょうか。「金」と「権力」のことでいっぱいなのでしょうか。

心の問題は、自然科学以上に難しい問題でもありますが、人間なら誰もが持っているものであり、誰でも堀り下げることはできます。考え方次第でどうにでもなる問題でもあります。

政治家や指導者にだけ心があるわけではありません。心は一人ひとりにあります。その一人ひとりの人間が持つ心を掘り下げて、「人間はどう生きたらよいか」ということを研修会の皆さまと心を開いて語り合ってみたいのです。



お待ちしております!!